

# 感染防止対策研修について

A2 病棟 副看護師長 近藤 顕子

6月21日に『アウトブレイクを起こさない』というテーマで永井啓祐感染認定看護師の講義による研修を行いました。当日の参加者は106名と昨年よりも22名も多く、院内の感染に対する意識が高まっていると感じています。

『アウトブレイク』とは同一病棟や同一機関といった一定の場所で、同一菌種が原因で感染が発生することです。当院の感染防止対策マニュアルでは、同じセクションからほぼ同時期に2~3名以上発症、病棟単位なら2~4日以内に2名以上患者の発症があった場合、アウトブレイクを疑い、厳重な感染対策が行われます。

講義では、今年春に県内で発生した麻疹（はしか）や風疹の予防接種の重要性、これからの時期に流行する感染症の紹介と予防方法の説明がありました。



麻疹(はしか):今年の春に新潟県で  
3例発生

風しん:風しん患者の中で男性が占める  
割合は3/4以上、その81%が  
20~40代(平成25年)

予防方法:マスク・エプロン・手袋の着用  
流水・石鹸での手洗い  
予防接種



「外からの感染症を施設内に持ち込まない」、「施設内で感染症を拡げない」が感染防止対策の基本であり、手指衛生とマスクの正しい装着が重要となります。外から病院に入った時、病棟の出入りの際には擦式アルコール消毒薬での手指衛生をお願いします。

## 夏に流行する感染症

咽頭結膜熱(プール熱) 6~10月に流行  
手足口病 流行のピークは7月  
ヘルパンギーナ 6~9月に流行

予防方法: 手指衛生(特にトイレの後には手を  
洗う)  
咳・くしゃみがある時はマスクを  
着用する  
ハンカチ・タオルを共有しない

